

# 悠久の京を訪ねて Part IV Vol.2



KYOTO  
ARCHAEOLOGY CENTER

京いにしえは古より人々が集い、その気候・風土の中、人々の生活が営まれてきました。

京都府内の遺跡で多数発掘された出土品により、縄文・弥生時代までさかのぼり、当時の様子を知ることができます。

私たちが住んでいる地域にはどのような歴史があったのか、出土した資料を基に過去の文化やその発祥の歴史を訪ねましょう。

## 丹後で出土した朝鮮半島産の陶質土器 — 府指定文化財：奈具岡北1号墳出土品 —



奈具岡北1号墳

### ■発掘調査で発見された前方後円墳

奈具岡北1号墳は、京丹後市弥栄町に所在する全長約60mの前方後円墳です。この古墳は、竹野川東岸の標高約40mの丘陵頂部に位置し、墳丘は丘陵の尾根を削り出して造られています。発掘調査の結果、埴輪や葺石は確認されませんでした。発掘調査の結果、埴輪や葺石は確認されませんでした。発掘調査の結果、埴輪や葺石は確認されませんでした。

後円部で2基の埋葬施設を確認しました。そのうち一つの埋葬施設の上面からは埋葬に伴う儀礼で使用された土器が、意図的に破砕された状況で見つかりました。また、棺内からは、鉄剣や鉄鉾、釦形銅器、そして、約70点の鉄製



発掘調査で姿を現した前方後円墳

のやじりが出土しました。武器や武具類の多さから、埋葬された人物は武人であったと考えられます。出土遺物から5世紀前半に造られたことがわかりました。

### ■ヤマト王権からもたらされた陶質土器

破砕された土器片には、日本国内で最も古い時期に陶邑窯（大阪府堺市）で焼かれた須恵器とともに、朝鮮半島で焼かれた複数の陶質土器が見つかりました。特に、高杯や器台は、朝鮮半島南部に所在した金官伽耶（釜山市）の土器の特徴が見られます。これらの陶質土器は、須恵器と一緒に出土していることから、朝鮮半島から直接もたらされたのではなく、ヤマト王権から丹後地域へもたらされたと考えられます。

この古墳に葬られた人物は、ヤマト王権と密接な関係をもっていたと考えられます。



復元作業の結果、器台や高杯であることがわかりました